

クビアカツヤカミキリの被害拡大に要警戒！

早期発見・早期防除を徹底しましょう

クビアカツヤカミキリは、サクラ、ウメ、モモ、スモモ、アンズなどを加害する外来害虫で、幼虫が樹木内部を食害します。幹や株元からフラスが排出され、被害が進むと樹勢低下や枯死に至るため、早期発見が重要です。6～8月の成虫発生期を中心に、捕殺、薬剤散布、ネット被覆などを組み合わせて防除してください。

●クビアカツヤカミキリについて

1) 生態

- (1) 成虫は体長2～4cm程度で、光沢のある黒色を呈し、胸部（クビ）が赤色をしていることが特徴です（写真1）。
- (2) 成虫は6～8月頃に出現します。雌成虫は、1頭あたり数百～1000個と非常に多くの卵を樹皮の隙間などに産み付けます。この高い繁殖力が、短期間で被害が拡大する要因となっています。
- (3) ふ化した幼虫は樹木内部を食害しながら成長します。幼虫期間は2～3年程度とされており、春から初夏にかけて摂食活動が盛んになります。

2) 加害植物

本種はバラ科の樹木を加害し、国内では、サクラ、ウメ、モモ、スモモ、アンズなどのサクラ亜科の多くの樹種で被害が報告されています。

3) 被害の特徴

幼虫が幹や枝の内部を食害することで樹勢が低下し、被害が進行すると、やがて樹木が枯死することがあります。被害樹では、幹や株元からフラス（幼虫の糞と木くずが混じったもの）が排出されます（図2）。幼虫の発育初期には、直径2mm程度のミンチ状のフラスが少量排出されます。幼虫の発育が進むと直径5mm程度の太いうどん状のフラスを排出し、被害が甚大な樹では、フラスが株元に大量にたまりまます（図3）。食入部位は、地表に現れた太い根から高さ2m程度までの幹に多くみられます。また、幹だけでなく、直径6cm程度の枝でも被害が確認されています。



図1 クビアカツヤカミキリ雄成虫



図2 ミンチ状のフラス



図3 株元にたまった大量のフラス

●防除対策（参考：[日本の果樹と樹木を守る外来カミキリムシ総合対策マニュアル](#)（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構））

果樹園内を定期的に巡回し被害状況の把握に努めるほか、防除は、捕殺、薬剤散布、ネット被覆、被害樹の伐採など総合的な防除対策を実施しましょう。

- （１）成虫を発見した場合は、直ちに捕殺してください。なお、本種は特定外来生物に指定されており、生きた個体の運搬、保管、放出等が原則として禁止されています。確認が必要な場合に備え、捕殺個体は保管するか写真を撮影しておきましょう。
- （２）成虫発生時には、殺虫剤を処理することで、樹上の成虫を駆除します。成虫活動期の６～８月には、登録のある薬剤を、樹幹部を中心に成虫が活動する葉、幹、枝、根にも薬液が十分かかるように散布してください（表１）。
- （３）樹内の幼虫に対しては、マイナスドライバー等で樹皮をめくり、幼虫を掘り取って捕殺してください。捕殺が難しい場合は、千枚通しや針金等を食入孔に入れて内部のフラスをかき出した後、登録のある殺虫剤を注入してください。被害木のフラス排出孔に殺虫剤を注入し、樹内の幼虫を駆除します。
- （４）被害樹では、成虫の分散や産卵を防止するため、成虫の発生時期までに、被害部を中心として目合い 0.3mm 以下の白色防虫ネット、白色防草シートまたは育樹シートを巻き付けてください。樹の下部から太さ 5 cm 程度の枝まで隙間のないように被覆し裾部はＵ字ピンで留めるか、土をかぶせて地際で固定します。ネット設置後も定期的に見回り、成虫を見つけたら捕殺してください。
- （５）被害が激しい樹では、幼虫を完全に防除することが困難で、早期に枯死するおそれがあります。このため、成虫の脱出時期を避け、９月から翌年４月までの間に伐採・抜根を行い、被害の拡大を防止してください。伐採した樹木は放置せず、10mm 以下に粉碎する、焼却する、またはくん蒸処理し、幼虫や蛹が生存できない方法で適切に処分してください。

表１ クビアカツヤカミキリまたはカミキリムシ類に登録のある薬剤（2026 年 6 月 30 日現在）

< 散布剤 >

薬剤名 (有効成分名)	作物名	サブグループ あるいは 代表的有効成分	IRAC コード ※1
オリオン水和剤	もも	カーバメート系	1A
	ネクタリン		
	小粒核果類(うめを除く)		
スミチオン乳剤 (MEP)	うめ	有機リン系	1B
	もも		
	うめ		
アグロスリン水和剤 (シペルメトリン)	もも	ピレスロイド系	3A
	うめ		
	すもも		
	ネクタリン		
アクタラ顆粒水溶剤 (チアメトキサム)	おうとう	ネオニコチノイド系	4A
	もも		
	ネクタリン		
	おうとう		

アクタラ顆粒水溶剤 (チアメトキサム)	小粒核果類 (うめを除く)	ネオニコチノイド系	4A
	うめ		
ダントツ水溶剤 (クロチアニジン)	もも	ネオニコチノイド系	4A
	うめ		
	すもも		
ベニカ水溶剤 (クロチアニジン)	もも	ネオニコチノイド系	4A
	うめ		
	もも		
モスピラン顆粒水溶剤	小粒核果類 (うめ、すももを除く)	ネオニコチノイド系	4A
	うめ		
	すもも		
パダン S G 水溶剤 (カルタップ)	もも	ネライストキシシン類縁 体	14
	ネクタリン		
	すもも		
ハチハチフロアブル (トルフェンピラド)	もも	ME T I 剤	21A
	ネクタリン		
アクセルフロアブル (メタフルミゾン)	もも類	セミカルバゾン	22B
	すもも		
	うめ		
	もも		
テッパン液剤	小粒核果類	ジアミド系	28
	おうとう		

< 注入剤 >

薬剤名 (有効成分名)	作物名	サブグループ あるいは 代表的有効成分	IRAC コード ※1
	もも		
ベニカカミキリムシ エアゾール	うめ	ピレスロイド系	3A
/ロビンフッド (フェンプロパトリン)	すもも		
	果樹類※2		

< くん蒸 >

薬剤名 (有効成分名)	作物名	サブグループ あるいは 代表的有効成分	IRAC コード ※1
キルパー 40 (カーバムナトリウム塩)	核果類(伐倒木、枯損 木)	メチルイソチオシアネ ートジェネレーター	8F

※1 IRAC コードとは殺虫剤の作用機構（効き方）を抵抗性管理のために分類し、数字とアルファベットで分かりやすく表示した略号です。同じコード（同じ作用機構）の薬剤を連用すると害虫に薬剤抵抗性が発達するリスクが高まります。

※2 かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、オリーブを除く

・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。

・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

病虫害防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>



農薬はラベルをよく読んで使用しましょう